

2021年8月のGlobal Sessionの**変更のお知らせ**

みなさま: 京都府も緊急事態宣言後、亀岡市も公共施設の使用ができなくなりました。そのため、8月29日(日)の開催日を9月25日(土)の変更致します。よろしくお願ひします。

期日: 2021年9月25(土)13:30-15:00

場所: ガレリア3階 会議室

ゲスト: 内田晴子さん(世界人権問題研究センター研究員)

テーマ: 差別するかもしれない私に気づく

概要:

「多文化」をお題に高校での人権教育授業や自治体の研修講座を担当する際によく使うサブテーマを、今回のテーマとしました。学生の頃からフィリピンと御縁があり、その後、フィリピンで働いたり、研究したりと長期滞在し、その後、日本ではフィリピン系の子どものサポートで小学校に通いました。社会的公正や社会運動、人権というテーマがずっと身近にありましたが、やはり分かっていなかったことも多く、職場(世界人権問題研究センター)で「人権教育」研究班の担当になって、(その後「移住者と人権」担当に)改めて勉強し直したことで、様々なことを言語化できるようになったと感じています。

高校生向けにはマジョリティ、マイノリティ、特権(privilege)、バイアス、ステレオタイプといった言葉を説明し、それが差別とどうつながるのか、という話をし、大人向けには様々な事例やデータを示すのですが、今回は、フィリピンとの御縁や個人的な経験を振り返りながら、自分が「気づく」プロセスについて共有できればと思います。

=====

内田晴子さんとは、京都市の国際交流会館を中心に多文化共生の活動をしている団体の集まりである「多文化交流ネットワーク」の研修会で知り合いになりました。もう、5、6年前です。そして、昨年、亀岡市であった人権教育指導者研修会の内田さんの講座に私も参加しました。内田さんは、『移住者と人権～移住者と日本語教育』という課題で話をされ、そのあとで、お話しをしてGlobal Sessionへのゲストをお願いしました。その後、内田さんは、2021年3月27日に開催された崎ミチさんをゲストに開催したGlobal Sessionにもお子様といっしょに参加していただきました。

今回は、ご自身の歴史をもとに、お話しをしていただく予定です。

内田晴子さんも、先に述べた京都市地域多文化交流ネットワークサロンの研究会で、『多文化社会を生きる II 外国につながる子どものことばとところ～生き抜く力をはぐむ学校・家庭・地域の役割～』という本が出版されています。その中で、内田さんは参加者からの質問に答え

てという座談会の司会をされています。これは、2016年7月1日の発行ですが、現在はかなり変化してきています。是非、内田晴子さんに会いに来てください。ただし、10名までなので、当日までに児嶋まで申し込みをしてください。よろしくお願いいたします。

児嶋きよみの連絡先:

Tel:0771-23-6579

e-mail:kiyomi-kojima@gaia.eonet.ne.jp

9月以降の Global Session の予定

9月→10月2日(土)10:30~12:00

玉野井麻利子さん:(3回目)(アメリカ大学教授)

「人類学とは何かーを気軽に考えてみよう」

10月23日(土):Fellner 真理子さん(オーストリアで日本語教師・亀岡在住)

11月:濱田雅子さん(21回目)

12月:オジュグさん(ポーランド出身・大学教員)「ポーランドのクリスマス」(仮題)

1月23日(日) 品田井サフワンさん(シリア出身・会社員)

2月:村田英克さん(4回目)

3月 濱田雅子さん(22回目)

4月以降の候補者:仲山德音さん(元亀岡市副市長)